

調査団報告書

No.106

調査内容

名古屋の図書館ができたばかりのころに、おはなし会がひらかれていたって聞いたけど、昔はどんな様子だったの？



戦前、当館にあった巖谷小波氏による
桃太郎の俳画揮毫
『市立名古屋図書館館報 [第1]』より

調査手順

鶴舞中央図書館の前身「名古屋市立図書館」は、1923年(大正12年)10月1日にオープンし、その年の12月16日、来名中の童話作家天野雉彦氏を招いて、第1回お話の会が開かれました。

この日は、「幸に絶好のお伽日和で、風もなく、日も暖な為めか、午前も午後も満員といふ状況で盛會を極めた」とのこと。午前が尋常4年以下、午後が尋常5年以上に分けられていて、プログラムは、お伽噺、動物の鳴声、修養談、手品や歴史談などでした。(動物の鳴声ってどんなプログラムだったのでしょうか。興味をそそります。)

開館1周年の1924年(大正13年)10月1日に行われた記念行事「児童お伽大会」では、口演童話で有名な、児童文学作家の巖谷小波氏が招かれ、大閲覧室に1,500人の子どもが集まりました。演題は「天狗山」で、午後1時~3時の2時間!当時の館報には、巖谷小波氏による桃太郎の俳画揮毫“鬼に打つ礫や桃の大きいなる”の写真が残っています。(現物は戦災で失われたと思われます。残念。)

調査結果

最初のおはなし会は、開館した年の1923年(大正12年)12月16日。午前午後とも満員の大盛況だった。開館1周年の記念行事では、児童文学作家巖谷小波氏を迎え、1500人の子どもが集まるほど盛大な催しになった。

今回の調査で使った資料

- 『市立名古屋図書館館報 [第1]』市立名古屋図書館/編 市立名古屋図書館 1928
- 『鶴舞図書館四十年史』名古屋市鶴舞図書館/編集 名古屋市鶴舞図書館 1963
- 『名古屋市鶴舞中央図書館50年史』名古屋市鶴舞中央図書館/編 名古屋市鶴舞中央図書館 1974
- 『名古屋市鶴舞中央図書館七十年史』名古屋市鶴舞中央図書館/編集 名古屋市鶴舞中央図書館 1994

